

提供日 2023/03/22
タイトル 給食施設の「気づかず減塩」が進んでいます
担当 健康福祉部 健康局健康増進課
連絡先 健康増進課地域支援班 日置
TEL 054 - 221-3263



給食施設の「気づかず減塩」が進んでいます

(要 旨)

本県の健康課題として、「脳血管疾患による死亡の多さ」があり、脳血管疾患の要因の一つである高血圧対策が重要です。

このため、県では、「気づいて減塩」と「気づかず減塩」の両輪で、5年間で5%の減塩を目指す「減塩55（ゴーゴー）プログラム」に取り組んできました。減塩の環境づくりを進める「気づかず減塩」の評価として、給食施設における平成28年度と令和4年度の給与食塩量を比較したところ、6年間で6.6%（0.26g）の減少が確認でき、目標を達成しました。

(内 容)

1 結果の概要

- 給食施設（対象：6業種※）の給与食塩量は、平成28年度から令和4年度の間、3.94gから3.68gへ0.26g（6.6%）減少した。
 - 栄養士の配置がある給食施設は給与食塩量が減少したが、栄養士の配置が無い施設では、給与食塩量は増加していた。
 - 給与食塩量の平均値は、学校、社会福祉施設では毎年度、減少していた。
- ※6業種：学校、社会福祉施設、事業所、一般給食センター、寄宿舎、自衛隊

2 減塩に向け、給食施設を対象に行った県のこれまでの取組

- 給食施設向け卓上ポップ作成・配布
- 給食施設のみそ汁の塩分濃度調査
- お塩のと리카たチェック票（リーフレット、web）作成・普及
- 減塩取組事例集の作成
- スーパー等の販売店と協働した減塩イベントの開催

3 今後の取組

- 減塩の取組に加えて、食塩を排出する（排塩）働きのあるカリウムを多く含む野菜の摂取量増加を目指す環境づくりを推進する。
- 将来的な高血圧対策として、子どもを対象に「適塩」や「野菜摂取」等をテーマとした絵本等の教育教材を用いた健康教育を実施する。

<減塩55（ゴーゴー）プログラムとは>

- 個人の行動変容を促す「気づいて減塩」と減塩の環境整備を進める「気づかず減塩」により、5年間で5%の減塩を目指す取組。

<給食施設とは>

- 学校、事業所、社会福祉施設など特定かつ多数の人に対して継続的に食事を提供する施設。

<減塩と血圧の関係>

- 1gの減塩により、収縮期血圧が、高血圧者で1mmHg、非高血圧者で0.5mmHg低下することがわかっています。（健康日本21（第2次）の推進に関する参考資料より）